

議決権行使レポート

証券コード 6,005

会社名 三浦工業

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金の処分の件	○		
第2号議案 監査等委員である取締役以外の取締役7名選任の件			
宮内 大介氏	○		
廣井 政幸氏	○		
武知 教之氏	○		
兒島 好宏氏	○		
米田 剛 氏	○		
河本 憲一氏	○		
樋口 建史氏	○		
第3号議案 監査等委員である取締役4名選任の件			
山内 修 氏	○		
佐伯 直輝氏	○		
安藤 吉昭氏	○		
小池 達子氏	○		
第4号議案 会計監査人選任の件		○	

上記の推奨をした理由

第1号議案に関しては、株主に対する適切な配分が行われることで、より多くの資金援助を促すことができるようになることに加えて、株主自身としても、株式を買うことにメリットを強く感じ、今後も株買いを続ける動機となるから。

第2号議案に関しては、宮内氏はこれまでの三浦工業での経験やノウハウを豊富に備えていることに加えて、三浦工業が目指す、グローバルな課題（地球温暖化やバラスト水問題）の解決に向けての国際協力のリーダーを担うことができる人物である。廣井氏は国内にある多くの支店にて活躍されてきた人物であり、日本国内での三浦工業の活動の指揮を執ることができる人物である。武知氏も、国内の多くの支店での勤務経験を持ち、国内における三浦工業の活動をますます推進することのできる人物である。兒島氏はアジアを中心に海外での勤務経験があるので、アジアにおける三浦工業の存在感を存分にアピールし、三浦工業がアジアから広く海外で支持を得る会社になるための窓口になってくれるだ

ろう。米田氏は主に水処理事業に携わってきているが、三浦工業は先述した通り、バラスト水処理装置や軟水装置の製造もおこなっているように、水に関する諸問題解決に向けた製品づくりを行っているので、米田氏の経験はまさに三浦工業の経営方針とマッチしており、三浦工業がより多くの水問題解決に向けた活動を促進するのに大きな役割を果たしてくれるはずだ。河本氏は新任ではあるが、国内の各支店の統括を歴任してきた方である。加えて、国内ボイラ事業を中心にトータルソリューション戦略を取ってきたという点から、他の取締役にはないボイラ事業の経験や、先ほどの米田氏が持つ水処理事業の経験での連携がとられることで、三浦工業が多種多様な視点から事業を幅広く展開していけるような橋渡しの存在になるだろう。樋口氏は社外からの俯瞰した視点として、三浦工業のポジションを伝えてくれる役割を果たしてくれる人物である。樋口氏は三浦工業が行うような事業の分野には携わったことはないものの、あえて違う分野の意見を取り入れられるというのは三浦工業にとって新事業等を起こす際には大きなメリットであるだろう。

第3号議案に関して、山内氏は三浦工業の社員であり、主に船用事業を歴任してきた人物である。現在は監査等委員会室長であることから、コーポレートガバナンスの遵守に関しては信頼がおける。佐伯氏は三浦工業本社の位置する愛媛県で監査人を行っているので、三浦工業とのつながりは深いと思われる。しかし、独立性については保証されており、第三者として適正な監査を行ってくれると考えられる。安藤氏は経営に関する知識を有しており、監査等委員としての信頼性はもちろんのこと、三浦工業の経営に関しても、適切な監督を行ってくれるだろう。小池氏は経営に関する知識は有していないが、アナウンサーであったという点からもわかるように、三浦工業が持ちえない知識や経験を有していることから、三浦工業が新たな視点を養うことに貢献してくれるだろう。

第4号議案に関しては、今年度から会計監査人としてEY新日本有限責任監査法人（以下EY）があげられており、理由の一つに国内外での事業拡大や三浦工業の環境変化に対応した監査が行われることが期待されるから、と述べられている。しかし、以前まで会計監査人であった有限責任監査法人トーマツ（以下トーマツ）はEYよりも多くの国内外拠点を有しており、国内外の知識や知見でいえばトーマツの方が優れていると考えられる。その為、事業拡大を見据えた際により適切に監査が行えるのはトーマツではないかと考えた。ゆえに、第4号議案には反対である。